

令和3年7月16日

医工連携の成果を製品化 ～ぐいぐいストレッチ～

<概要>

浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科の山内克哉病院教授と株式会社共臨社（静岡県駿河区）は、共同研究の成果として上肢の可動範囲や筋力の改善を目的としたトレーニングを行うリハビリテーション製品の「ぐいぐいストレッチ」を製品化し、7月中旬から販売を開始する。

この「ぐいぐいストレッチ」は、平成29年6月より始まった「ぐるぐるストレッチ」の産学協同研究開発の流れを汲み、浜松医科大学の臨床現場のニーズを実用化したものである。

株式会社共臨社が製造販売を担当し、3年後には年間500台の販売を目指している。

<研究の背景>

先に始まった「ぐるぐるストレッチ」の産学協同研究開発より、その特長でもあるルールアシストを利用した機構を臨床現場にもあった既存のサンディングボードに活かすことができないだろうか？との考えより、本研究開発が始まった。

既存のサンディングボードはハンドルを握り上下に動かす一方向運動をするものが多く、作業療法士・理学療法士が寄り添い詳細に指示を出すことで複合運動を促すことが一般的であった。常に作業療法士・理学療法士が寄り添わなければ狙った動き（複合運動）が出来ず、また利用者の手加減次第で運動効果が変わるということが見受けられた。

そこで、従来の機能に加え、ルールアシストを加えることでその問題点を解決できるのではないかと考えた。

<研究の成果>

臨床現場のニーズを、実現化すべく平成29年11月より共同プロジェクトが始まった。

ルールアシストの形状、ハンドルの形状、大きさの検討、材質の検討、安全性試験を行い、試作品を臨床使用し、改良を繰り返した。

令和3年6月にこれまでのサンディングボードに曲線のルールアシストの機構をつけた形状の製品が完成し、「ぐいぐいストレッチ」と命名された。

<今後の展開>

今年度は、120台の販売を目標とし、来年度250台の販売を目指す。

<研究グループ>

本研究開発は、浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科作業療法部門の協力の下、同病院リハビリテーション科の山内克哉病院教授と、株式会社共臨社が共同で実施したものである。

<本件に関するお問い合わせ先>

浜松医科大学 産学連携・知財活用推進センター（〒431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1）

Tel:053-435-2681/Fax:053-435-2433

Email:itos@hama-med.ac.jp

株式会社共臨社 介護・福祉・リハビリ製品部門（〒422-8058 静岡市駿河区中原 569 番地）

Tel:054-281-1166/Fax:054-281-8096

Email:largocare@kyorinsha-ws.jp

<参考図>



ぐいぐいストレッチ W900
(GI-0909)

※W900 専用脚 (GI-K09) を使用した例



ぐいぐいストレッチ W450
(GI-4509)